

2021年10月15日発行の橋梁通信に弊社記事および広告が掲載されました。

※橋梁通信社の許可を得て掲載しております。無断で転載・複写することを禁じます。



支承補完構造設置のためのアンカーボルト用削孔

「啓発は、未来の追求なり」

サンコーテクノ
エンジニアリング本部



梶原正之 工事長

サンコーテクノ(千葉県流山市、洞下英人社長)は、1964年(昭和39年)の創業以来、社会に役立つ安心・安全の価値を追求し、あと施工アンカーなど建設資材のファスニング(締結)製品の分野で独自の技術開

同社エンジニアリング

本部工事部の梶原正之工事長に、同工事について聞いた。

――工事の概要から。

梶原 当社は西田高架橋、亀山高架橋、ランプの計11橋の上部工事を担当している。設計に従い、支承補完構造工、落橋防止構造工として凹凸構造約30基、ピン構造約60基、ブラケット構造約70基、アンカーバー構造約230本などを設置する工事だ。

――工事の特徴は。

梶原 工種と基数が多く、さらに9工区が広範囲に点在しているため、材料置場、人員の配置、工程管理がとて難しく、当然ながら、見回りにも時間と労力が必要。

――今後は2つの高架橋を中心

に工事を進めているが、11月からはランプ橋も本格化する。お客様発注者、元請け、各協力会社と連携を取りながら、安全に作業を進めていきたい。

――展望と抱負を。

梶原 昨年10月から下部工の中間貫通工からスタートして約1年、上部工も半年が過ぎたが、順調に進捗している。

工期はあと1年半。未経験の工種もあるが、アンカーボルトのメーカーとして長年培ってきたファスニング技術を生かし、協力業者、各材料メーカーと連携しながら、お客様のニーズや現場状況、選定工法にマッチしたアンカーや施工法を提案し、安全で確実な工事を実現できればと考えている。

当社独自のファスニング技術、製品を施工技術にミックスさせ、開発工法や創意工夫などで、現場環境に即した技術提案と良質な現場管理の実践により、お客様に喜んでいただくことが、サンコーテクノ工事部の存在意義だと思っ

橋梁耐震補強工事は、今後も需要が見込まれる。当社の経営理念にもある啓発は、未来の追求なりを思い、いかなる工種・施工条件でも喜んでチャレンジさせていきたい。自らの技術を日々磨き続けることにつながる。当現場でもお客様に喜んでいただくことを第一に、また、工事のノウハウをしっかり学び、次に生かしていきたい。

――次は生かしていきたい。

接着系アンカー無機系注入方式カートリッジ型プレ混合式

サイズミック エコファイラー SE-1300V

PAT.P

容器の再使用可能

1. 材料をコンクリートの下孔へ注入

2. アンカー筋を挿入

▼施工動画

残材とプラの分別・廃棄可能

太径・長尺アンカー筋でもスムーズな挿入

新技術情報提供システム

NETIS

登録番号: KT-180048-A

- ・ VOC発生ガスや臭いがなく、作業環境改善に貢献
- ・ 横向き、天井向きの注入でも材料のダレが少ない
- ・ セメント系のため不燃性 ・ 材料の配合管理が不要
- ・ 専用の攪拌棒で簡単な練り上げができる

サンコーテクノ株式会社

☎.0120-350-514 <https://sanko-techno.co.jp/>